

令和4年度北陸農政局多面的機能発揮促進事業優良活動表彰
多面的機能支払部門

いけたに いりやま ためんてき きのう くみあい
池谷入山多面的機能組合(新潟県十日町市)

〈NPO法人との協働による関係人口の拡大と地域の活性化〉

協定面積:17.54ha
構成員:農業者20人、非農業者22人、参加団体5

本地区は、新潟県十日町市のなかでも山あいの雪深い地域にあり、棚田での稲作を中心とした営農が展開されている。農業者の高齢化に伴い施設の適切な保全管理がなされないことで、耕作放棄が懸念されることから、NPO法人との連携により関係人口を創出することで共同活動を推進している。

地域住民と地域外住民で「池谷の3年後を考える会」を開催し、地域の現状と課題、取組の方向性について理解を深めている。また、棚田オーナー制度による田植え・草取り・稲刈り体験イベントを開催するなどの都市農村交流を通じて、若い移住者が増加するなど、地域の活性化が図られている。



【地域外住民との意見交換】



【棚田オーナーによる田植え】

たかみや かんきょう ほぜん かい
高宮環境保全会(富山県南砺市)

〈のぼり旗やポスターを活用した環境保全の取組〉

協定面積:114.1ha
構成員:農業者49人、非農業者39人、参加団体10

本地区は、都市と農村が隣接する混住化が進行した地域であり、農業者の高齢化が進む中、水路の泥上げ等の活動に非農業者が多数参加することで、担い手の負担軽減が図られ、農地集積が進んでいる。また、児童クラブ・母親クラブと連携して、手植えによる田植え体験を行うなど、地域住民参加型の企画を実施している。

代表的な取組として「小中高生」、「一般」の2部門を設けて、環境保全に関する標語やポスターを募集し、優秀作品をのぼり旗やポスターにして、美化運動に活用している。また、約300年前から続く伝統行事である「熱送り」について、活動組織が中心となり地域の子どもたちとともに取り組むことで、地域コミュニティの活性化が図られている。



【募集した標語ののぼり旗】



【伝統行事の「熱送り」】

令和4年度北陸農政局多面的機能発揮促進事業優良活動表彰
多面的機能支払部門

ひ よう がわ
日用川グリーンクラブ(石川県七尾市)

＜地域ぐるみの活動による「田んぼダム」の取り組み＞

協定面積:135.77ha
構成員: 農業者65人、非農業者199人、参加団体8

本地区は、能登半島東側の七尾湾に流入する日用川の両岸に位置する水田地帯であり、稲作を中心とした農業が行われている。非農業者も多く参加する地域ぐるみの活動により農業用水路等の保安全管理を行うことで担い手の負担軽減を図るとともに、施設の定期的な巡回点検・機能診断を行うことで、異常の早期発見と応急・補修対策を実施している。

また、活動組織が中心となり、地域の子どもたちと共に水路やため池の生き物調査や、古くから地域の神事として行われている「虫送り」に取り組んでいる。さらに、豪雨の際に発生する日用川の越水に対して、従来実施されてきた堤防の嵩上げや河川の浚渫等の対策に加え、活動組織では新たに田んぼダムに取り組むこととしており、県内の先進的な取組事例となることを目指している。



【子どもと父兄が参加する生物調査】



【伝統行事の「虫送り」】

くま だに みどり ほぜんかい
熊谷美土里保全会(福井県越前町)

＜NPO法人や大学と連携した地域コミュニティの形成＞

協定面積:8.5ha
構成員:農業者5人、非農業者11人、参加団体6

本地区は、四方を山に囲まれ、熊谷川を取水源とした営農が行われている。また、周辺には六古窯の一つである越前焼の窯跡群が残る自然環境と文化遺産に恵まれた歴史ある地域である。

NPO法人や大学と連携し、学生が地域住民と共に草刈り・泥上げ等の農地維持活動を実施している。また活動組織が整備した田んぼビオトープにおいて、ホタル等の観察会を地域住民と学生が協働で取り組んでいる。加えて、地域の子どもを対象とした手植えによる米づくり体験や遊休農地を活用した野菜づくり、地域の高校生が参加する獣害対策として伐採した雑木を利用した炭づくりなど、教育機関と連携した多様な世代間の交流により、地域コミュニティの活性化が図られている。



【学生が参加した水路の泥上げ】



【遊休農地での野菜づくり体験】

くろくら
黒倉集落協定(新潟県十日町市)

＜移住者が移住者を呼ぶ、農業の担い手から地域の担い手へ世代をつなぐ集落づくり＞

協定面積: 田 23.3ha(急傾斜20.9ha)
協定参加者: 農業者19名

本集落協定地区は、平成12年度から本制度を活用して農道・水路の補修や生産組合による農作業の共同化など営農体制の整備に取り組むとともに、地域外からの人材の確保に向けて、地域おこし協力隊の受入れを契機に、受け入れた人材と連携した都市住民との体験交流活動を進めている。

現在、移住者が中心となって設立した地域活動団体「縄文ノ和黒倉(じょうもののわくろくら)」が、新そば祭り等を開催するなど、体験交流活動を発展させており、移住者が新たな移住希望者を呼び込む良い循環が生まれている。

また、移住者に対して農地の斡旋など地域への定着に向けたフォローも行っており、移住者は集落の共同作業に参加するだけでなく、高齢者世帯の除雪も行うなど、農業の担い手としてだけでなく、地域の担い手として活躍している。



縄文ノ和黒倉のメンバー



黒倉新そば祭り

ながさか
長坂集落協定(富山県氷見市)

＜「棚田オーナー制度」を核に関係人口の増加による地域の担い手確保にむけた取組＞

協定面積: 田 18.7ha(急傾斜: 18.7ha) 協定参加者: 農業者34名、
長坂椿衆・姫椿衆(協定参加者で組織されオーナー田の管理などを担う組織)、
長坂棚田保全会(県、土地改良区、JA等で組織する棚田オーナー制度の実施主体)

本集落協定地区は、平成12年度から本制度を活用して農道や水路などの施設整備に取り組むとともに、平成11年から集落内の棚田を活用した県内で初となる「棚田オーナー制度」を始め、立山連峰を望む素晴らしい景観を活かした都市農村交流による地域活性化の取組みの定着を図ってきた。

また、令和2年から棚田地域振興活動加算を活用した斜面用の草刈り機の導入と草刈り作業の共同化等により、農用地の維持管理の負担を軽減し、生産性向上に繋げている。

更に、令和3年度には「つなぐ棚田遺産」に認定され、地元小学校に棚田のオーナーになってもらい、平日に授業の一環としてオーナー田での農作業体験や灌漑設備に対する学習会を開催するとともに、地元高校生に棚田オーナー向けのイベントのスタッフとして協力してもらうなど将来の担い手育成に繋がる新たな取組みを始めている。



オーナー田の田植え



オーナー田の稲刈り

かみむぎくちまち
上麦口町集落協定(石川県小松市)

＜農村の「日常的」な資源を生かしたワークキャンプから関係人口の創出＞

協定面積: 田 2.0ha(急傾斜: 0.3ha)
協定参加者: 農業者8名、任意組織1

本集落協定地区は、平成12年の集落協定の締結を契機に集落全体で水路・農道等の維持・管理や農地保全に取り組むとともに、平成18年に麦口地区営農組合を立ち上げ、全ての協定農用地をこの集落営農組織に集約し、農業経営の効率化と農村景観の維持に努めてきた。

また、平成25年から令和元年まで毎年、集落の行事として国際ボランティア(国際ワークキャンプ)を受入れ、キャンプの参加者に集落内のさまざまな作業を担ってもらうことで人手不足解消に繋げており、神社周辺の草刈り(年3回)に本交付金が活用され、神社の参拝など、参加者には価値ある体験として楽しんでもらい、キャンプ終了後も継続的に交流を深めている。

近年は週末ワークキャンプとして、市内大学生らが参加し、農地法面へのシバザクラ植栽等を担ってもらい、交流人口の増加に向けて継続的に取り組んでいる。



神社境内の清掃作業を終えて



週末ワークキャンプで植栽したシバザクラ

やまなか
山中農地保全組合(福井県高浜町)

＜集落住民と力を合わせた獣害対策と住み続けられる集落への取組＞

協定面積: 田 7.8ha(急傾斜: 6.5ha)
協定参加者: 農業者19名

本集落協定地区は、平成12年度から本制度により協定参加全世帯で集まり、水路や農道周辺の草刈りや清掃を行うとともに、本制度を活用してイノシシ防護柵を設置するなど獣害対策に取り組んできた。

特にサルによる農作物への被害の増加に対応するため、協定参加者以外の住民も連携して花火や爆竹の使用法や追払いの基本知識を学ぶ研修会を行い、サルの出没に即応できる効果的な追払いの仕組みを構築し、獣害被害を削減している。

従来からの集落の「寄合」や地域の祭りなども活用し、住民が多く集まる場をとことん使いながらサルの追払いの研修会をPRLし、獣害対策は集落全体で取り組む課題であることを全住民で共有し、集落全体で安心・安全な集落づくりを実践し、集落に住み続ける若者が出てくることを期待している。



花火の打ち方を学ぶ研修会



集落の寄合